

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0171300072), 法人名 (メリーライフ株式会社), 事業所名 (グループホーム里の家大曲 つつじ), 所在地 (北海道北広島市大曲緑ヶ丘1丁目2番地2 TEL 011-377-8373), 自己評価作成日 (令和元年12月10日), 評価結果市町村受理日 (令和2年2月13日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、愛のある暮らしの中で、楽しく生涯を送れることを願いとし信じあえる希望ある福祉を創造し、社会に貢献していくことをモットーにしています。具体的には、ご自宅での生活状況が、入居しても延長したもとなるように配慮しながらご自宅に近い環境となるよう努め、支援させて頂いています。馴染みのある家具や道具に囲まれながらの食事作り、畑仕事や地域の交流などで、生活のリズムを通して、忘れていた自分を取り戻し、穏やかに日常が過ごせるよう支援に努めております。また、職員一人ひとりが、利用者様と生活を共にしていることを常に意識し、ゆつくりと関わりをもち、落ち着いた環境の中でコミュニケーションを図っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JieyosyoCd=0171300072-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和2年1月28日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(Empty box for external evaluation comments)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいて今年度の目標や毎月の目標を設定して、一人ひとりが意識しながら実践につなげている。また、市のボランティアを受け入れるなど地域に根差したサービスを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	職員や入居者様は近所の方と顔馴染みになり挨拶を交わすなど町内会の一員として交流を深めている。回覧板が回り町内会の行事に管理者と共に参加して交流が続いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	保育園の来設や小学校の福祉学習への参加、絵手紙サークルとの交流があり認知症の理解が深まっている。また車いす講習に講師として管理者は参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では避難訓練の様子、防災について、事故等の報告、食事、行事についてなど意見交換を行いサービスの向上に努めている。毎回、ご家族様や外部の方に参加して頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定調査や福祉課の面談など連絡や調整を行っている。入居者様の最近の状態の様子を伝え関係を築いている。他に市も含めた市内の介護事業所間との連絡協議会にも参加し連携を密にとっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を立ち上げ、運営推進会議で毎回、話し合いが行われている。11項目に関する具体的な行為について正しく理解できるよう一つ一つ取り組んでいる。玄関の施錠は道路に面しており安全のため鍵は掛けられているが、可能な限り付き添い対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部、内部研修で学ぶ機会があり高齢者虐待防止法を理解している。小さなことでも未然に防げるよう職員一人ひとりが日々、話し合いを行い常に意識しながら防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ユニットで利用している入居者様はいないが、権利擁護に関する制度の内容を理解し必要によっては活用できるよう研修等で学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者が重要説明書等を丁寧に説明してご理解をいただいている。改定があった場合は早めに対応して納得していただけるよう取り組んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加の際に意見交換を行っている。また、面会時や介護計画書の説明の時を利用してご家族様からご意見等をいただく機会がある。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議では管理者も参加して職員の意見等を聞く機会がある。また職員と管理者の間に壁ができないよう日頃からコミュニケーションをとり言いやすい雰囲気作りに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人手不足ではあるものの日頃の状況を把握して職員の休日、有給希望などに考慮しながら、可能な限り条件に応じた対応に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や講演会の情報提供があり希望者は参加できる機会がある。それに伴い職員は資格取得などに取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は北広島ネットワーク、助けあえーるなど地域交流会に参加して他ホームや施設の職員と活動状況等を報告、情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の様子から性格、趣味、得意なことなど把握して話題を提供している。入居者様の気持ちに添いながら安心できるように関係性を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族様も不安な面が見られる。その都度、希望や要望をお聞きしながらご家族様の思いを受け止め信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後、1か月ほどは入居者様の様子を小まめに報告して安心できるよう対応している。初期介護支援計画書はご本人様とご家族様の希望、要望を取り入れサービスを開始している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にしている。掃除や食器拭き、洗濯たたみなどお手伝いされる方もいる。趣味や特技を活かしながら関係性を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはご本人様の近況報告や受診の結果などを報告している。お薬の調整のためご家族様も一緒に受診に付き添うこともあり、協力していただいている。忙しい方にはメール等で適宜報告している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前、住んでいた近所の方が来設されることもある。気軽に面会できる雰囲気になっている。また遠方の親戚、ご家族様などご本人様から電話の依頼がある時は対応を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のレクリエーションを通して一緒に体操などに参加したり、各ユニット交流が行われ食事会や外出行事、お誕生会、カラオケと交流を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人様の状態に伴い他施設への移動希望が出た際も関係性を大切にしながら情報を提供したり相談員と連絡調整しながら円滑にいくよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話からご本人様の思いを聞き実現できるよう努めている。困難な場合はご家族様と協力しながら対応している。一つでも気持ちを汲み取るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様の面会時には懐かしそうに昔話をされることがある。以前の様子をお聞きしながら暮らしぶりを把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で一人一人の状態について、常に情報収集を行い日々の暮らしの把握に努めている。日常生活の中で、できる事、わかる事に視点をおいている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議で職員全員で介護計画書の評価、見直しを行い、一人ひとり現状の課題に応じ「その人らしさ」を軸にした計画書を作成できるよう努めている。できる限りご本人様、ご家族様の希望、要望等を取り入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践した気づきや結果を一人ひとり個別に記録している。情報を収集、カンファレンスを行いながら職員間で話し合いを持って介護計画書の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物の支援や電話の対応、介護タクシーの手配、福祉用具の修理依頼や購入など一人ひとりの状態に合わせて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市のボランティアの方が来設されて将棋を行ったり、外出行事に参加していただき入居者様とは顔馴染みにもなっている。また訪問内容が2か月1回来ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療、訪問看護、居宅療養管理指導など協力病院や調剤薬局と連携して適切な医療が受けられるよう体制がとられている。ご家族様の希望の病院の場合も柔軟に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日に訪問看護を受けている。入居者様の体調の様子などを看護師に相談したり、定期受診の予約調整も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	当ユニットで入院はなかったが、日頃から入居者様の情報を伝えながら協力病院と連携をとっている。入院の場合は早期に退院ができるようご家族様やご本人様の気持ちを考えながら調整を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	職員と管理者は看取りの研修に積極的に参加している。重度化に向けて「看取り」の体制が整い次第取り組んでいく形をとっている。まずはご本人様、ご家族様の気持ちに寄り添うことを第一に考えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の緊急マニュアルが作成され職員は把握できている。またノロウイルス対処方法やインフルエンザ予防対策に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自主的に地震想定や夜間の想定の避難訓練が行われている。また年に2回、消防と町内会の協力をいただいている。また保存食や水、暖房機器、自家発電機など災害に向けた準備が整えられている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた言葉かけや対応を心掛けている。トイレ誘導の際には特にプライバシーに配慮しながら対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中から自己決定できるような場面を作り出している。表現が困難な方にはご家族様から情報を頂いたり、しぐさや表情で汲み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりにあったペースで過ごせるよう日々、関わりを持ちながら支援している。ご本人様の「その人らしさ」を理解するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	爪切りや髭剃り、着替え、化粧などその人らしい身だしなみができるよう支援している。訪問理容は定期的に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材テストに取り組みながら彩りや季節感を味わえる料理を心掛け食事を共にしている。入居者様は食後、職員と一緒に片付けに意欲的に参加している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は一人ひとり記載して把握している。水分が少ない方にはご家族様と相談してご本人様の好きな飲み物をリサーチし購入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行いご本人様の状態に合せながら行っている。希望者は歯科往診をいつでも受けられる体制が整っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方は排泄表を作成してトイレ誘導を行いパターンを把握して対応している。状態によっては2名介助の場合を行うなどトイレでの排泄を基本とし支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳やヨーグルトを提供したり、根菜類などの食材を使い便秘予防に取り組んでいる。また、主治医に相談して便秘薬の調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人様が曜日を決めて入浴されている方もいる。入浴拒否される方には言葉かけを工夫することで対応できている。日頃からいつでも入れるような環境作りをしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムを整えながら安眠できるよう日中の活動を促している。生活習慣から夜間不眠が見られる場合は日中の静養を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりのお薬情報を把握して理解している。お薬が追加や変更になった場合はその後の状態変化を観察するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や特技、ゲーム等、カラオケ様々なレクリエーション活動を取り入れながら気分転換を図っている。挨拶が得意だったり歌が上手な入居者様もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩やウッドデッキでの外気浴を行っている。行事ではご希望を聞きながら地域のお店に出かけたり、個人行事を立案してご家族様も一緒に参加している。また、ボランティアの協力もあり季節ごとの行事を楽しんでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理されている方は行事や買い物の際ご自身で支払い等をされている。ご家族様同伴と一緒に買い物等に行かれる場面もある。管理が難しい方に関してはトラブルにならない配慮をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様からご家族様や親戚へ電話の希望があった時に都度対応している。難聴の方には職員が介入して説明しながら対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは日差しも入り、明るい空間になっている。ソファが置かれ入居者がくつろぐ姿が見られる。室内には温湿度計があり温度、湿度が保たれている。日めくりカレンダー、季節ごとの行事ポスター、日常写真、入居者の作品などを掲示して居心地よく過ごせるよう工夫がされている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大きなソファで女性入居者がお話ししていたり、一人掛けソファでは男性入居者が傾眠されていたりと思いきいに過ごされている。居室でゆっくりご本人様のペースで過ごしている方もいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔なじみの家具や仏壇などが置かれていたり、ご家族の写真が飾られて居心地の良い空間になっている。状態によって混乱が見られる方には家具の配置替えを行うなど工夫して居心地よく暮らせるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ、浴室は分かりやすいように表示している。理解が難しい方には言葉かけしながら誘導したり付き添いを行い安心して生活できるよう対応している。		